

サポーター書評

大阪工業大学図書館では学生ボランティア団体の
ライブラリーサポーターが活躍しています。
今回は枚方分館所属のサポーターさんに書評を寄
稿していただきましたので、ご紹介します！

「女生徒」

著書：太宰 治

評者：岡田 舞（IM科 3年生）



知らぬ誰かの一日であるのにどこか既視感を覚える。

この本は高校に通う女生徒のある一日を切り取った小説だ。主人公は、鏡の
中の自分・眼鏡・傘・通勤者……何か見る度に想像・妄想を膨らませ、感情を
波のように変化させていく。

特に印象に残ったのは、『「本当の意味の」とか「本来の」とかいう形容詞がた
くさんあるけれど、「本当の」愛、「本当の」自覚、とは、どんなものなのか、はっ
きりと手にとるようには書かれていない。』という一節だ。

たしかに私たちも「本当に大切なこと」などと語ることにはあるが、その「本当
の」意味を理解しているのか、と問われると戸惑ってしまう。

この曖昧さの裏には、語る側自身が「本当の何か」に確信を持てていないと
いう共通点がある。そして、たとえ確信を持てていても民意とずれていれば善
行であっても、それが認められないこともあるという気づきにもつながった。
主人公の世間に対する不安を垣間見ることができる。

こんなふうに日々の中で違和感や悩みを抱えている人にこそ、この作品を手
に取ってほしい。明日への小さな希望を見つけるために。

所蔵館：大宮本館
配置場所：工大4F文庫本
資料ID：91170331

所蔵館：枚方分館
配置場所：*****
資料ID：*****

所蔵館：梅田分館
配置場所：*****
資料ID：*****